

「さあ、みんな、考えよう」

「あなたはどのようなメッセージを受け取りましたか？」 ～ 大坂なおみ選手の抗議マスクから考える ～

全米オープンテニス大会で優勝した大坂なおみ選手が1回戦からの全7試合で試合ごとに名前が書かれたマスクを着用していました。大坂選手が勝ち進み、新たなマスクが着用されるたびに、そのマスクに刻まれた名前の方について、様々なメディアがとりあげ、その方が命を落とした事件や経緯について報道されました。準々決勝の試合後には、会場内にビデオメッセージが流れ、大坂選手が3回戦と4回戦に着用したマスクに名前がプリントされた2人の犠牲者の親が登場し、大坂選手に感謝の言葉を述べていました。大会の主催者が大坂選手の行動を支持しているあらわれでした。大坂選手の行動で黒人差別問題や“BLACK LIVES MATTER”運動への関心がさらに高まりました。

1回戦着用黒マスク「BREONNA TAYLOR」(ブリオナ・テイラーさん)

2020年3月13日、救急救命士のブリアンナ・テイラーさんとその交際相手が寝ているときに警察が踏み込み、テイラーさんに8回発砲しました。その後住所が間違っていたことが判明しました。本人は亡くなりました。

2回戦着用黒マスク「ELIJAH MCCLAIN」(イライジャ・マクレインさん)

2019年、当時23歳のイライジャ・マクレインさんは不審者がいるとの匿名通報から突如警官に拘束され押さえつけられ圧迫気絶し、更には鎮静剤ケタミンを注射され心不全を起こし数日後に亡くなりました。拘束された理由は、手配中の「不審人物」に外見が似ていたからでした。

3回戦着用黒マスク「AHMAUD ARBERY」(アフマド・アーベリーさん)

2020年2月、ジョギングをしていた25歳のアフマド・アーベリーは、白人男性親子に軽トラックで追い回されたのち、銃で射殺されました。その際に白人親子は人種差別的な発言をしており、その動画がネット上にあがりさらに大問題となりました。

4回戦着用黒マスク「TRAYVON MARTIN」(トレイヴォン・マーティンさん)

2012年、当時17歳のトレイヴォン・マーティンさんは、自警団に所属する当時28歳のスパニッシュ系の白人に胸を撃たれて死亡しました。理由は、マーティンさんが拳動不審だったために尾行し、言い争いになったための射殺でした。のちに裁判で正当防衛ということで無罪が言い渡され、黒人への人種差別だと問題となりました。

準々決勝着用黒マスク「GEORGE FLOYD」(ジョージ・フロイドさん)

2020年5月25日、偽ドル札の使用容疑で手錠をかけられたフロイドさんが「呼吸ができない、助けてくれ」と懇願したにも関わらず警察官は8分46秒間フロイドさんの頸部を膝で強く押さえつけフロイドさんを死亡させました。その時間の中でフロイドさんの反応が見られなくなった後の2分53秒間においても警察官はフロイドさんの頸部を膝で押さえつけていました。

じゆんけつしやうちやくよう くろ

準決勝 着用の黒マスク「PHILANDO CASTILE」(フィランド・カスティールさん)

2016年7月、当時32歳のフィランド・カスティールさんは、車のバックライトが消灯していた理由で警察に呼び止められました。職質に応じたカスティールさんは、認可を得て銃所持していることを告げて免許書を提示しようとして撃たれました。その一部始終をカスティールさんの恋人が生配信していて問題となりました。

けつしやうちやくよう くろ

決勝 着用の黒マスク「TAMIR RICE」(タミル・ライスさん)

2014年11月、当時12歳のタミル・ライスくんは、市内の公園でおもちゃの銃を人に向けて遊んでいました。そこに『銃口を人に向けている子どもがいる』との通報を受けてかけつけた警官が到着し、ライスくんに3度『手を上げろ!』と命じましたがそれに感じなかった為に撃たれ、のちに亡くなりました。

“Black Lives Matter” (通称BLM) [ブラック・ライヴズ・マター]とは?

アフリカ系アメリカ人に対する警察の残虐行為に抗議して、非暴力的な市民的不服従を唱えるアメリカ合衆国の組織的な運動です。2012年にアフリカ系アメリカ人の当時17歳のトレイボン・マーティンさんが射殺された事件(4回戦で大阪選手がマスク着用)で自警団の無罪判決が出た後の2013年7月にソーシャルメディア上で #BlackLivesMatter というハッシュタグの利用によりこの運動は始まりました。2020年の米国でのブラック・ライヴズ・マター抗議行動には推定1500万人から2600万人が参加し、米国史上最大級の運動となっています。2020年6月のピュー・リサーチ・センターの世論調査では、人種や民族を問わず、アメリカ人の大多数が Black Lives Matter 運動への支持を表明しています。

ぜんべい ゆうしやうご うんどう まい
全米オープン優勝後のインタビューでブラック・ライヴズ・マター運動をめぐり、7枚のマスクを通して伝えたかったメッセージについて聞かれたとき、その質問に答えて大坂選手は

「あなたはどのようなメッセージを受け取りましたか? 話し合いが起きれば良いと思います。より多くの人がこのことを語るきっかけになるといいと思います」と語りました。

ぶんざい・はしもとひろし

10月、11月の講演会や研修会の案内

- 10月2日(金) いがまち人権センター解放講座 (19:30 ~ 21:00) いがまち人権センター
「高齢者の引きこもり問題」(池上正樹さん) [特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会議連合会]
- 10月20日(火) ライトピアおおやまだ人権大学 (19:30 ~) ライトピアおおやまだ
「ゆがむメディア ゆがむ社会」(北口末広さん) [近畿大学人権問題研究所]
- 10月30日(金) 2020 部落解放・人権大学講座 (19:30 ~ 21:00) ゆめぼりすセンター
「スマホ時代の子どもたちに大人ができること」(石川千明さん) [NPO 法人なら地域の学び推進機構]
- 11月12日(木) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30 ~ 21:00) 青山文化センター
「障がいのある人とスポーツ ~パラリンピックの魅力」(角正真之さん) [大阪市障害者福祉・スポーツ協会]
- 11月24日(火) 2020 部落解放・人権大学講座 (19:30 ~ 21:00) ゆめぼりすセンター
「部落差別解消推進法を学ぶ」(奥田均さん) [近畿大学人権問題研究所]

○柘植地域人権啓発合同フィールドワーク(遠方) [水平社博物館と奈良市南人権文化センター]

→ 本年度は、現在の状況を踏まえ、中止とさせていただきます。

- 10月に開催予定だった三重県人権・同和教育研究大会は中止です